

R. I. District2610, ROTARY CLUB OB UOZU

## 魚津ロータリークラブ会報誌

2011-2012年度 RI会長 カルヤン・バネルジー

2011-2012年度 魚津RC会長 寺崎 明博



2012-1-6

### 第2807回 例会報告

- (1) 点鐘
- (2) 君が代斉唱
- (3) ロータリーソング 「奉仕の理想」
- (4) 四つのテスト唱和
- (5) ゲスト並びにビジターの紹介  
魚津市消防署 救急係長 山海嘉明様
- (6) 誕生祝



1月1日 須河 元信さん

皆さん、明けましておめでとうございます。誕生祝の歌を頂きありがとうございます。おめでとうは新年なのか、誕生なのか分からない1月1日です。

新年早々うれしい話がありました。私のいとこの子が箱根駅伝で往路12位、復路6位になりました。来年のシード権を獲得しました。春からパワーを頂きました。私もそのパワーを頂き飛躍の年にしたいと思います。ありがとうございました。



1月1日 山澤 正和夫人さん

おめでとうございます。63歳になりました。昨年は孫が小学校に入りました。その世話をしています。女房は去年20数回ゴルフに行きました。元気です。

12月28日、3000台の大口機械の注文がありました。商社も通訳もないが私一人で進めています。正月より朗報が入りました。上海に行ってきます。



1月2日 野澤 良成夫人さん

あけましておめでとうございます。2日の朝、孫がおめでとうとお母さんに言いました。今年は暖かい家庭を目指していきます。2日の元旦祭で八幡さんが長生きの秘話をされました。「かきくけこ」にかけ、「感動、興味、工夫、健康、恋」であると言われました。特に恋と恋愛を間違いないようにしたいと思います。今年一年よろしく願います。



1月10日 平崎 暉夫夫人さん

10日で古希を迎えます。孫に追われながら必死に頑張っています。皆さん宜しくお願いします。

(7) 米山功労者賞の伝達

- ・宮本 汎さん
- ・生駒 晴俊さん

(8) 会長挨拶 寺崎 明博さん



新年あけましておめでとうございます。昨年中は大変お世話になりました。本年も変わらずご協力をお願いします。魚津ロータリーの会長職も今日で半分を過ぎ、今の気持ちを簡単にしますと、先ず魚津ロータリーを一つの山に例えて話をします。山といいますがやはり魚津では1855mの僧が岳だろーと思います。富山県には立山がありますが、それは他の町のことで僧が岳こそ春になれば傘を被った坊主や猫、虚無僧が現れ世界でも珍しい山であります。魚津にとっては大きな財産であります。少し話しがそれましたが、先ずロータリーを僧が岳に例えますと2011年から山登りをするために7名の先輩達が私に寺崎おま



えが先頭にたつて山に登れと言われたのが2009年12月3日でした。当時は冗談だろうと本気にもしませんでした。日が経つうちに覚悟をしなければならないと決めたのが2010年1月14日。当時は大城年度で会長の大城さんから電話がかかっていたことを覚えています。それから山に登るためにリックや地図、靴など山登りに必要な物を2011年6月に準備をして山の頂上を目指して、皆さんに「寺崎、あそこは気をつけて登れ」また「この辺りは自分で判断して登れ」と聞かされておりましたから、お陰様で危ない所を避けて通ることが出来ました。登るうちに私が一番感動し、美しいと感じたことは魚津ロータリーが他のクラブに比べると気品が有るといいますか、57年間の気高さを感じました。これは57年間の先輩達の功績と皆さん一人ひとりの人格の表れでもあると思います。汗をかき山を登りながら、この魚津の良さをきっちり守りたいと思い今日ここに上半期の頂上に日の丸の旗をしっかりと立てることができました。これからは6月30日を目指して山を下りますが、下る途中はまわりの景色を見、草花を楽しみながらゆっくりと山を下りたいと思います。途中足をすべらせる事もあるでしょうが、そこは大きな怪我のないように楽しみながら、皆さん共々無事に山を下りたいと思います。これからも宜しくお願い致します。今日は会長卓話となっておりますが、挨拶はこれ位にして、後程魚津消防署の山海さんに東日本大地震の救助活動をしてこられた生々しいお話を聞くことになっております。挨拶はこれで終わらせていただきます。ありがとうございました。

#### (9) 幹事報告

- ・ガバナー事務所より職業体験プログラムの小冊子が来ています。
- ・地区国際委員会よりベルギー留学体験談の冊子が来ています。
- ・年末のつくし学園クリスマス会参加のお礼状が届いています。
- ・魚津クラブに対して年賀状が来ています。

#### (10) 出席報告

- ・本日の出席 31名 欠席者 4名 出席率 88.57% メークアップ なし。
- ・2805回の出席率はメークアップなしで、88.57%変わりなしです。

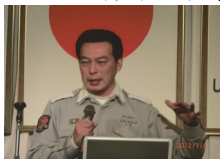
#### (11) ニコボックス

- ・大村 雅紹さんより、15年皆出席賞受賞に際して
- ・野澤 良成さんより、10年皆出席賞受賞に際して
- ・武隈 博信さんより、44年皆出席賞受賞に際して
- ・辻 浩さんより、吉森 勝代さんより、小浜 裕子さんより、皆出席賞受賞に際して。
- ・寺崎 明博会長より、新年おめでとうございます。ということで。

#### (12) 委員会報告

#### (13) 本日の卓話

- ・「瓦礫下の声」～愛する家族のために生きる～ 魚津消防署 救急係長 山海 嘉明様



これからお話しすることが、和やかなこの場にふさわしいかどうか疑問に感じていますが、私としては東日本大震災を風化させてはいけないということでお話しさせていただきます。

二部に分け、前半は現状の紹介、後半では被災者にお会いして皆さんに伝えたいことをお話しします。

私は、県の緊急消防援助隊救急部長として参加しました。帰ってきてから色々な場で報告してきました。震災の爪跡、悲惨な現場は映像で見るのと現地で見るとは全く違ってきます。被災に遭われた方が見るのも私たちの想像を超え全く違います。スクリーンからは瓦礫の表面のみです。瓦礫の下に色々な悲惨な物語があることを伝えたい、悲惨な叫びを伝えたい、伝えなければならないと思っています。

3月11日に緊急消防救助隊が全国から派遣されました。緊急消防援助隊は阪神淡路大震災の教訓から大災害が発生した場合、迅速に人名救助が出来るようにということで創設されました。現在98%の消防署で組織されています。富山県では新潟県中越沖地震などの災害に出動しています。東日本大地震の出動のピークであった3月18日には全国から1558隊、6000人が現地入りしました。魚津市からは救急部隊として参加しました。私は隊長として現地で指揮を執りました。担当したのは仙台空港近くの宮城県名取市の海沿いのゆりあげ地区でした。救急隊はけが人を運ぶのが任務なのでたくさんのけが人を運ぶ人命救助という高い志を持って、参加しました。しかし、現地は絶望的な状況でした。瓦礫の下のご遺体を回収するしかないもどかしさを感じました。隊員には「これも人命救

助なんだ。ご遺体が遺族に戻ることで遺族が救われることがあるんだよ。」と言い聞かせました。

現地には警察・消防・行政・被災者も入っている、津波で家が流されており、道・自宅の場所・位置が分からない、町全体がぐちゃぐちゃになっている、ヘドロが被っている中で、行方不明者の捜索をしている状況でした。

#### ・スライド



緊急消防救助隊富山県隊 車両の集結（朝日町パーキング） 名取川の様子（津波前）（川の木が揚がる） 3/12 現地の状況 自衛隊のボート 仙台空港（連絡橋）（連絡橋の上）（ターミナル）（水浸しの滑走路）（水に浸った車）家の前に漁船 1軒だけ残った家 基礎だけ残った 道にある瓦礫 瓦礫を掘り起こす（隊員）（遺体）（遺体にシートをかける）（遺体を包む） 重機が道路を造る 横転した消防車 コンビニに押し込まれた自動車 救急隊員とテント だろだろになった救急者

#### ・補足の説明

海拔2mの地域であり、海岸沿いの10mの堤防を波が乗り超えた。

遺体の回収は自衛隊の任務であり、救助隊の任務は遺体を見つけ、印をつけていくことである。

ちょっと腹ただしかったのは、あるテレビ局の若い女性リポーターが泥だらけの私達の近くに来て、化粧し、きれいな合羽を汚していたことです。

瓦礫の下には色々な物語があります。救助活動の合間に、被災者と出来るだけ話をしてきました。よく身内のことを問いかけてこられました。形式的でなく、こちらから「どこで被災されましたか」等と話かけると、辛い気持ちを誰かに聴いてほしいとの想いで、「よく聴いてくださった。」とよくしゃべられました。胸の内を聴いてあげることで被災者の方々も気持ち的に救われるかなと思い、努めて聴いてあげるようにしました。これから私が皆さんに切にお話ししたいことです。

第一印象として、お話した被災者の方々からは落ち込んでいる気持ちは見受けられませんでした。逆に、今、自分たちががんばらなければとの強い活力をひしひしと感じました。被災者に励まされたという感じがしました。お話した皆様は今も頑張っておられると信じてお話しします。

#### ・物語1 40歳の中年男性

倒壊した家に入った時のことです。「私の家です。二日間探しました。100mほど流されていました。震災当日は、私は仕事で外に出ていました。家族は妻の運転する車で逃げ、途中で被害にあったようです。遺体安置所で家族を確認してきました。私一人だけ残りました。家族にお別れして来ました。辛さの極限を超えてしまうと涙も出ないのですね。一人ぼっちになりましたが、この地を離れ、必死で生きていきます。愛する家族の分まで必死に生きていきます。私の話を聴いてくださってありがとうございました。」と頭を深深と下げ、去っていかれました。

#### ・物語2 70歳くらいのおばあちゃん

うつ伏せになって亡くなっておられたおばあちゃんの体を仰向けたとき、私達は立ちすくんでしまいました。なんとおばあちゃんは小さな子どもをギュッと抱きしめておられたのです。自然に大粒の涙がこぼれました。おばあさんは「神様、この子だけは助けて」と叫びながら息を引き取ったのだと思います。そのような光景が自然と見えて来て、二人を離そうとしたことを誤りました。遺体は確認のため一人ずつ遺体を包み込む決まりになっていましたが、「俺たちが悪かった」と言って二人一緒にシートに包みました。

赤ちゃんをおんぶ紐で背負い、二、三歳の子を手引いた若いお母さんの遺体発見という状況もまれではありませんでした。

隊員はテントに帰ってから色々悲惨な状況を話しました。話さないと精神的に参り、トラウマになりそうな状況でした。

### ・物語3 30歳そこそこの男性

妻と娘と両親を乗せ、逃げるため車を発進させようとしたら、突然妻が「お隣のおじいちゃん、おばあちゃんは？」と言いました。日頃から仲良くしていたこともあり、妻の言葉を聞いて「どうしよう」と私は葛藤しました。迷った挙句、発進させようとした時、妻が「私と娘は走って逃げるから、あなたはお隣の夫婦を乗せて逃げて。」と車から娘を連れ出して走って行きました。隣の家に駆け込むと夫婦は仏壇の前において「高齢者の夫婦にかまわんでいい」と言いましたが、無理に車に押し込み高台へと逃げました。今は両親とお隣の夫婦と一緒に避難所で暮らしています。妻と娘には未だに会えません。妻と娘は行方不明になってしまいました。かけがえのない大切な者を失いました。私はどうすればよかったですでしょうか。私は「奥さんはお隣の夫婦を置き去りにすることはできなかったのでしょうか。きっと後悔しておられないと思いますよ。」と答えました。男性も「私もそう思います。妻と娘のためにそのことで悔やむのはやめます。」と言いました。

### ・物語4 小学校1、2年生の男子

倒壊した家で、先生が「ここは子の家です。この子の家族全員が亡くなり、一人だけ残されました。その事態が分かっていません。そのような残酷なことはとても話せません。お家は壊れたけれど、お家にある大事な物を探してこようねと言って連れてきました。」と話されました。けなげな子どもは、泥をほじって見つけては「これ、おじいちゃんのだ。」と言っていました。そして耳元で、「離れ離れになった人もたくさんいる。君のお父さん、お母さんは一生かけて、君を見つけてくれるよ。だから、がんばるんだよ。」と話しかけました。あの子はきっと立派な子になると信じています。

以上、私の体験した宮城県名取市の一部でのドラマです。被災地の皆さんは、一人ひとり、このようなドラマを抱えています。

私が出会った皆さんは必ず一つの言葉「家族」「家族のために」を必ず言われます。被災者のみなさんは普通の平凡な生活に戻りたいと願っておられるのです。皆さん、今、生きていることを「喜び」としたいものです。

よく「防災対策として何を準備したらよいでしょう。」と聞かれます。私は、「物を備える前に心の備えをしましょう。」と答えます。節電、節約、助け合い、思いやりなど自然で当たり前のことをやりましょう。被災者はこのような大事なことを教えて下さっています。

家族という「絆」を学んでいきましょう。家族があるから、頑張れる自分がいます。瓦礫の下から聞こえる被災者の声が皆さんに少しでも伝わればと願い話をさせていただきました。

「がんばつぺな～東北」一緒にがんばりましょう。

(中川 正昭先生の起稿です。ありがとうございました。)

### あとがき

- ・新年あけましておめでとうございます。今年も宜しくお願い致します。
- ・新年初めのゲスト卓話は強烈的な体験談でした。魚津消防署 救急係長 山海さんはじめ皆さん、ご苦労様でした。今後の益々のご活躍をご祈念いたします。
- ・環境省は1月12日、今年度の環境保全功労者などに対する大臣表彰受賞者を発表した。地域環境美化功労者は全国で15人と39団体が、県内では魚津工業高校が選ばれたと報道されました。  
「奉仕の理想」を掲げるロータリーのインターアクトクラブとして、日頃数々の実践活動されている姿は多くの市民の目に映り、そして遠く東京にまで届いたその声は、美しいものであります。おめでとう！魚津工業高校。  
「天網恢恢（かいかい）、疎（そ）にして漏らさず」です。
- ・NHK大河ドラマは新年より「平清盛」が放映されました。激動の末法の時代を生き抜いた英雄をどのように表現されるのか楽しみです。約1000年前の大昔のことですが現代に通じる教訓が数多くあると思われます。現在、私達を取り巻く環境、わが国を取り巻く環境がその時代に似ているのでしょうか。正に「時代は繰り返す」ですか。